

# 予 算 要 求 資 料

令和4年度9月補正予算

支出科目 款：農林水産費 項：林業費 目：林業振興費

## 事業名 森林情報精度向上事業費（森林活用推進課）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

林政部 森林活用推進課 森林吸収源対策係 電話番号：058-272-1111(内4121)

E-mail：c11513@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 44,427 千円（現計予算額： 0 千円）

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	44,427	0	0	0	0	0	44,427	0	0
決定額	44,427	0	0	0	0	0	44,427	0	0

## 2 要 求 内 容

### （1）要求の趣旨（現状と課題）

平成31年4月に森林経営管理法が施行され、適正な管理が行われていない森林は市町村が管理することとなった。しかし、市町村においては管理に必要な森林資源情報を十分有していないことから、県が管理している森林資源情報を提供する必要があり、その情報の精度を高めることが重要である。

森林環境譲与税は、その創設目的に照らし、国から積極的な予算化及び事業実施を求められているところ、現在、昨年度事業の執行残が基金に積まれている。

このため、基金の残額を活用し、森林資源情報の解析業務をさらに進め、森林資源情報を提供することで、市町村が実施する森林経営管理制度等を活用した森林整備の促進を支援する。

### （2）事業内容

県及び国が実施した航空レーザ測量によって得られたデータを解析することにより、これまで現地踏査等によってしか得られなかった森林資源情報（森林疎密度、立木本数、樹高等）を整備し、森林経営管理制度等に取り組み市町村へ提供する。

また、森林経営管理制度により市町村へ管理を委託された森林とそれに隣接する市町村有林との一体的な整備を促進するため、市町村有林人工林についても同様の解析を行い、該当市町村へ提供する。

**【森林資源情報の解析】**

業務内容：1) 森林疎密度解析

航空レーザ測量データから、単木データ（立木位置、樹高、樹冠の広がり）を抽出し、樹冠疎密度及び相対幹距比を計算する。これらのデータを組み合わせて、適正な管理が行われていない過密林（間伐が必要な森林）を判定する。

業務内容：2) アカマツ実態調査

森林簿上で樹種がアカマツとなっている箇所について、航空レーザ測量データ及び空中写真から林相判読を行い、実際の樹種に合わせるため、森林簿修正用データを作成する。

**(3) 県負担・補助率の考え方**

県10/10

市町村の支援を行うために譲与される森林環境譲与税を活用する。

**(4) 類似事業の有無**

無

**3 事業費の積算 内訳**

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	44,427	森林資源情報の解析業務委託 (森林疎密度解析、アカマツ実態調査)
合計	44,427	

**決定額の考え方****4 参考事項****(1) 各種計画での位置づけ**

第4期岐阜県森林づくり基本計画において、森林経営管理制度を推進するための支援として、森林疎密度解析図等の情報を市町村や林業事業体等に提供することとしている。

**(2) 後年度の財政負担**

引き続き、県が負担する。

**(3) 事業主体及びその妥当性**

事業主体：県

森林環境譲与税の趣旨から、県は市町村支援の役割を担う必要がある。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

既存の航空レーザ測量データを活用し、森林経営管理制度の対象となる私有林人工林及び市町村有林の解析等を10年以内に完了する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R01)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R11)	
					達成率	
森林疎密度解析面積 (私有林人工林)	0ha	182,855ha	51,133	24,244	258,000ha	91%
森林疎密度解析面積 (市町村有林人工林)	0ha	0	0	30,130	30,130ha	0%
森林資源情報解析面積 (材積、林齢等) (私有林人工林)	0ha	0	0	0	258,000ha	0%
アカマツ実態調査	0ha	1,790ha	7,360ha	7,292ha	16,442ha	56%

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・23市町村（182,855ha）を対象に航空レーザ測量データから森林疎密度を解析し、市町村へ提供した。</li> <li>・4市町(1790ha)を対象にアカマツ実態調査を行い、森林簿更新用データを作成した。</li> </ul>
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ <b>事業の必要性</b>(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3: 増加している 2: 横ばい 1: 減少している 0: ほとんどない</p>	
(評価) 3	市町村が行う森林の適正な管理を支援するためには、森林資源情報の精度向上を図ることが必要である。
<p>・ <b>事業の有効性</b>(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3: 期待以上の成果あり 2: 期待どおりの成果あり 1: 期待どおりの成果が得られていない 0: ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	森林疎密度データを市町村へ提供することで、市町村が行う森林経営管理制度の取り組みが円滑に進むなど、事業効果は高い。
<p>・ <b>事業の効率性</b>(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2: 上がっている 1: 横ばい 0: 下がっている</p>	
(評価) 1	専門技術を有する事業者に委託することにより、事業の効率化が図られる。

### (今後の課題)

<p>・ <b>事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> 航空レーザ測量時点から森林資源情報の解析を行うまでにタイムラグが生じ、開発等により現地状況の変化が変化すること。</p>
---

### (次年度の方向性)

<p>・ <b>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> 目標の達成率が100%となるまで実施する。 [森林資源情報解析] 令和11年度に完了予定。</p>
---